家計診断

巨大投信「グロソブ」に評価損
高分配ファンドに乗り換える？

相談

68歳の年金言者です。8年前、退職金の運用に悩まされた思い、巨大な資産規模が話題を呼んだ投資信託「グローバル・ソブリン」を2回に分けて計400万円分購入しました。毎月、お小遣い程度の分配金が出ていましたが、基準価額はリーマン・ショック後に大きく下落して、今も多額の評価損が出ています。こんなに値下がりして、なかなか回復しないのはなぜでしょうか。これとは対照的に、最近、新興国に投資して高額の分配金を出している商品が気になっています。グロソブの回復は待つとして、損切りをして、こうした高分配ファンドに乗り換えた方がいいでしょうか。

リスク高い新興国債 ■ 余裕資金で運用を

1997年に設定されたグローバル・ソブリン・オープン（毎月決算型）は、2008年には総額が8兆円に迫る勢いでしたが、現在は3兆円を下回っています。とはいえ、現在も国内最大規模のファンドです。巨大化の理由は、いくつか考えられます。

①投資対象が格付けの高い先進国の国債で比較的安全。

②毎月分配金が支払われる。

③いつでも購入・解約できる。

もちろん資産の9割が外国の国債なので為替リスクはあります。相談者がグロソブを購入した3年前は、この10年間で最も円安の時期でした。その後のリーマン・ショックやギリシャ経済危機で、一時的な避難場所として日本円にマネーが流れ込んだ結果、ほぼすべての通貨に対して大幅な円高となり、グロソブの基準価額が下落する最大要因となりました。

加えて、ユーロ圏の一部の国に対する不安が広がり、国債価格が値下がりした影響もありました。

基準価額が大きく下がっても毎月分配を続けたため、結果的に元本を取り崩す形となり、さらに基準価額が下がるという悪循環になりました。そこで注目を集めているのが、新興国の債券を投資対象とする毎月分配ファンドです。

グロソブの分配金は、過去の高い時期で1万口当たり60円、最近は30円台。一方、1年半前に設定されたブラジルレアル建てファンドには分配金200円のものもあり、6倍も差があります。

しかし、投資の世界では、リターン（もうけ）が大きければ、リスク（不確実性や収益のブレ）も大きいという関係が厳格に存在することを忘れてはいけません。

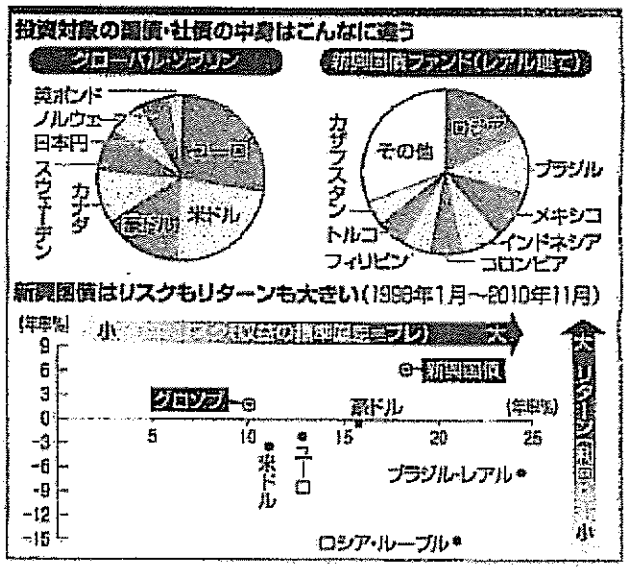
リスクを価格する手掛かりのひとつが格付けです。お金を貸した相手がどれだけ確実にお金を返してくれるか、利子を きちんと支払ってくれるかの確実性を示します。AAAが「最も安心」で、以下、AA+→A→BBB→BBと、だんだん不確実になります。

投資先＝上のグラフ1を見ると、グロソブではほぼすべてAA以上ですが、レアル建て新興国債ではBBB以下がほとんどで、確実性ではいぶん違いがあります。

下のグラフは二つのファンドと五つの通貨の価格変動をもとにリターンとリスクの関係を示したものです。横軸が年率リターン（利回り）、縦軸がリターンの年率標準偏差（収益の平均値からのブレ）。標準偏差が大きいほど不確実でブレが大きい、つまり、とてもうかると言われれば、大きな損失を被ることもあり、リスクが大きいということです。

レアル建て新興国債ファンドの場合、実質国債のリスクは先進国の国債の約2倍です。さらにブラジルレアルの通貨としてのリスクは米ドルやユーロの2倍以上。したがって新興国債ファンドのリスクは、大きなばに言ってグロソブの4倍程度です。だからこそ現在は高い分配金を出せるのです。

投資に当たって、自分の金融資産におけるリスク商品の割合を確認しましょう。今後の生活資金や使う予定のある資金は預貯金など



一方、グロソブ値下がりの主要因は円高なので、今後は中長期的に円安局面に入るとみるなら、グロソブ回復を期待して保有し続けるのも一つの考え方でしょう。

FPアソシエイツ&コンサルティング
ファイナンシャルプランナー　福田　啓太

（出所）朝日新聞　be Saturday　　掲載日: H23年2月5日

（無断転載を禁止します）